子育て相談員だより
2022．6月
No.39

〒270－1516
千葉県印旛郡栄町安食938－1
ふれあいプラザさかえ　1階
子育て包括支援センター　子育て相談員
URL　http://www.town.sakae.chiba.jp/
Eメール　kosodate@town.sakae.chiba.jp

～自分で考える力～

青山学院大学を箱根駅伝で６回優勝に導いた青山学院大学の原（はら）晋（すすむ）監督のお話です。

　強いチーム作りをする上で考えたことは「相談してくる人」を育てる、ということ。
理想は、監督が指示を出さなくても部員それぞれがやるべきことを考えて、実行できるチーム。つまり、指示待ち集団ではなく、考える集団。
言葉にするのは簡単ですが、土壌づくりと同様に時間が必要です。
相談するとはどういうことか。たとえば選手が「足が痛いです」と言ってきたとします。それは相談ではなく報告です。「それで？」「どこがいつから痛いの？」「治るまで何週間？」と質問を広げていきます。さらに「治るまで１か月ならいつまでに治すように努力するの？」「それまでにできるトレーニングはＡ・Ｂ・Ｃあるけど、どの方法をやってみたい？」と具体化していきます。そして「Ａ にしたいと考えていますが監督はどう思いますか」と自分で答えを出すところまで求めます。それが本当の相談です。じぶんで考えるまで忍耐強く待つ。部員からの提案を嫌う監督もいるけれど、それだと指示を仰ぐ部員ばかりになります。マネジャーが「今日のスタートは何時にしますか」と聞きに来たとします。指示を出したい監督であれば「〇時に〇〇グラウンドで」と伝えて終わり。それではマネジャーはただの御用聞きで何も得るものはありません。天候、気温、グラウンドコンディション…など練習時間を決めるさまざまな要素から「今日は日中気温 30 度を超えるので練習は午後４時からにしませんか」と相談にくる。その提案に納得できれば「それでいいんじゃない」と答えます。自分の提案が通るとそのマネジャーにとってひとつの成功体験となります。そしてさらによりよい練習環境を整えようとします。これが今の青学陸上競技部です。

自主性を育てる。子どもの意見を尊重する。
子どもの意見を受けて、すべてその通りにするということではありません。「どっちがいい？」「どう思う？」…意見を引き出す中で、ルールや社会の良し悪しなどを教えていくことだと思います。
子ども同士のおもちゃの取り合いなども、ある程度見守っていると、子どもなりの解決方法を見出そうとすることがあります。
少し待つことが大事な時もあります。
日々の生活のいろいろな場面で育まれていくものです。